

はしがき

Editor's Note

ここに『異文化コミュニケーション論集』第13号を無事刊行できることを非常に喜ばしく思う。今年、さまざまな事情から異文化コミュニケーション研究科にとって試練の多い一年となった。本号編集代表の任を与えられた筆者も、慢性的に多くの業務を抱え、あらゆる作業で効率性を心がけなければ前に進めない状況に直面した。そうした中でも編集作業の最優先事項として肝に銘じたことは、これまで本論集が積み上げてきた実績を裏切らない「質」の確保だった。本号に収められた論文、研究ノート、書評の内容や範囲を見れば、多くの方々のおかげで何とかその使命が果たせたと考える次第である。

とくに、研究科主催公開講演会の記録をもとに寄稿いただいた箕浦康子先生、菅原和孝先生、奥野克己先生には心からの謝意を申し上げたい。いずれの講演会も多くの聴衆を引きつけ、反響が大きかった。その内容がこうして文字化され、より多くの人々の目に届くことをたいへん有り難く思う。いかなる分野の研究者であろうと普遍的に認識しておくべき研究の基本理念だけでなく、研究者としての情熱やコミットメントも感受できる刺激的な論考である。筆者自身も、勇気をいただいた。

日本の大学に勤務して4年目の筆者にとって、本号の編集作業は慣れないことの連続だった。それを丁寧に辛抱強く支えてくれたのはリサーチワークショップ運営機構RAの吉村聡氏で、同氏の的確なサポートなしに本号は刊行できなかった。お礼を申し上げる。また、多忙を極める中、査読などご協力いただいた同僚諸氏、さらに、表記・フォーマットの確認作業を担当していただいた院生委員会の皆さんに謝意を記したい。ふみくら書房の小松裕美子氏にもいつもと変わらぬご支援をいただいたことを感謝している。

武田珂代子

Kayoko TAKEDA